

令和7年度 東京都立調布北高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

注 意

- 1 問題は**1**と**2**があり、4ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50**分で、終わりは午前**11**時**35**分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次の文章を読み、後の〔設問〕に答えなさい。

（＊のついている言葉には、文章の後に〔注〕があります。）

ひとりで勝手にお掃除してくれるロボット。その能力を飛躍的に向上させるなら、わたしたちの仕事をいつかは奪ってしまうのではないかと心配する向きもある。しかし、もうしばらくは大丈夫なのではないかと思う。一緒に暮らしはじめてみると、その〈弱さ〉もいくつか気になるのだ。

玄関などの段差から落ちてしまうと、そこからはなかなか這い上がれない。部屋の隅にあるコード類を巻き込んでギブアップしたり、時には椅子やテーブルなどに囲まれ、その袋小路から抜けだせなくなりそうになる。「アホだなあ……」と思いつつも、そんな姿になんともなくほっとしてしまう。

こうした関わりの中で、わたしたちの心構えもわずかに変化してくる。ロボットのスイッチを入れる前に、部屋の隅のコードを束ねはじめる。ロボットの先回りをしては、床の上に乱雑に置かれたモノを取り除いていたりする。いつの間にか、部屋のなかはきれいに片づいている。このロボットの意図していたことではないにせよ、周りの手助けを上手に引きだしながら、結果として「部屋のなかをお掃除する」という目的を果たしてしまう。これも、まさしく〈関係論的なロボット〉の仲間だったのである。

先に述べたように「コードを巻き込んで、ギブアップしやすい」というのは、一種の欠陥や欠点であり、本来は克服されるべきものだろう（じつは、いつの間にかパワーアップされたお掃除ロボットの仲間とは、こうした欠点を克服しつつある……）。しかし、その見方を変えるなら、この〈弱さ〉は、「わたしたちに一緒にお掃除に参加するための余地や余白を残してくれている」ともいえるのだ。

そこで一緒にお掃除する様子を眺めてみるとおもしろい。わたしたちとロボットとは、お互いに部屋を片づける能力を競いあいながら、この掃除に参加している風ではない。どこまで手伝えばいいのか、どのような工夫をすれば、このロボットは最後まで完遂してくれるのか。そうした試行錯誤を重ねるなかで、お互いの得手、不得手を特定しあう。目の前の課題に対して、その連携のあり方を探ろうとする。「相手と心をつなげる」というところまで、まだ距離はありそうだけれど、ようやくその入り口に立てたような感じもするのである。

床の上のホコリを丁寧に吸い集めるのは、ロボットの得意とするところであり、わたしたちに真似はできない。一方で、ロボットの進行を先回りしながら、椅子を並べかえ、障害物を取り除いてあげることは、わたしたちの得意とするところだろう。一緒にお掃除しながらも、お互いの〈強み〉を生かしつつ、同時にお互いの〈弱さ〉を補完しあっている。

これも多様性というのだろうか、そこでは部屋の壁、わたしたち、そして健気なお掃除ロボットという、さまざまな個性やそれぞれの技が協働しあっている心地よい。そうした高度な関わりにあつては、ロボットはすべての能力を自らのなかに抱え込む必要はない。わたしたちもまた完全である必要はないということなのだろう。

でもどうして、このような連携プレーが可能なのだろう。一つにはこのロボットの性格から来るものなのではないかと思う。ぶつかるのを知ってか識らずか、部屋の壁に果敢に突き進んでいく。コードに巻きついて、そこからなかなか離れようとはせず、遂にはギブアップ……。そんな失敗をなんとかくりかえしても、懲りることがない。

そのようなロボットのあつけられかんとした振る舞いに対して、「どうして壁にぶつかるか」と知っていて、ぶつかるのだろうか。アホだなあ……」と思いつつも、いつの間にか応援してしまう。

先に述べたように、わたしたちの共同行為を生みだすためのポイントは、自らの状況を相手からも参照可能なように表示しておくことである。「いま、どんなことをしようとしているのか」「どんなことに困っているのか」、そうした〈弱さ〉を隠さず、ためらうことなく開示しておくことで、お掃除ロボットは周りの手助けを上手に引きだしているようなのである。

（岡田美智男「〈弱いロボット〉の思考」による）

〔注〕

*〈関係論的なロボット〉——筆者は「他者の手助けを引きだしながら、結果として目的を達成してしまうロボット」を〈関係論的なロボット〉と呼んでいる。

〔設問〕

傍線部「連携」とありますが、この際、筆者はどのようなことが大切だと述べていますか。

また、本文中の「ロボットと人」との関係を「人と人」との関係に置き換えたとき、連携を生みだすために、どのようなことが重要であるとあなたは考えますか。本文を踏まえて、三二〇字以上三六〇字以内で述べなさい。

なお、考えを述べるためには、次の四点を踏まえること。

- 一 筆者の意見については、第一段落で簡潔に述べること。
- 二 自分の考えを、理由とともに提示すること。
- 三 原稿用紙の書き方をする（一行目は一マスあけて書くこと）。
- 四 段落は、二段落、または三段落で構成すること。

2

資料1～3を参考にして、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。
 なお、各資料は、環境省・国際エネルギー機関のデータをもとに作成した。

〔設問1〕

資料1～3から読み取れることを、それぞれ答えなさい。

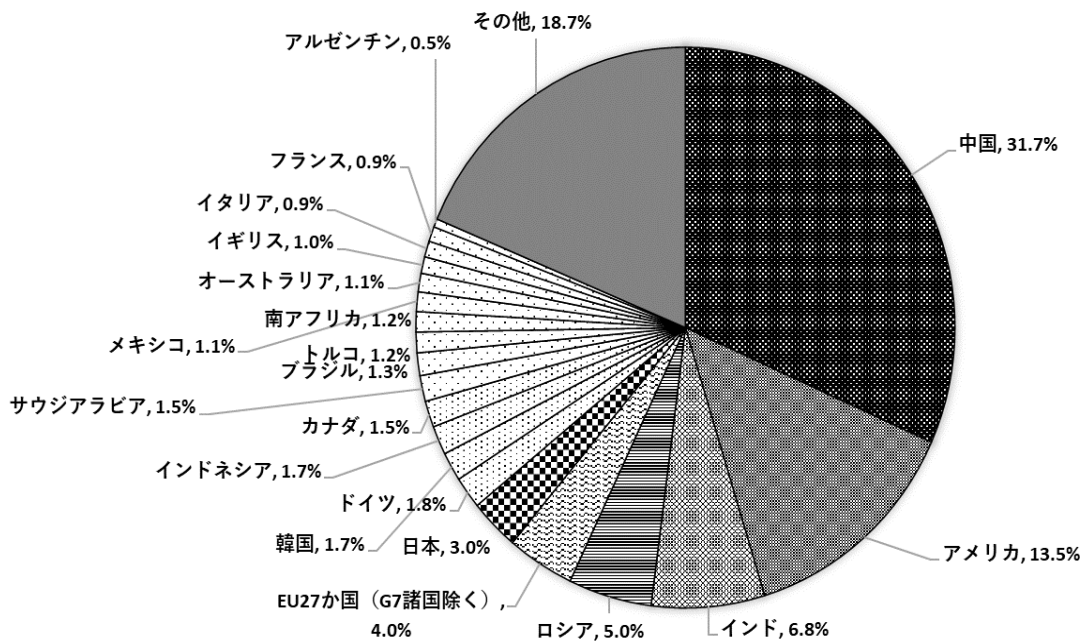
〔設問2〕

あなたが社会のリーダーになったと仮定して、脱炭素社会の実現に向けて、どのような手段が取れると考えますか。一六〇字以上二四〇字以内で述べなさい。

なお、考えを述べるためには、次の三点を踏まえること。

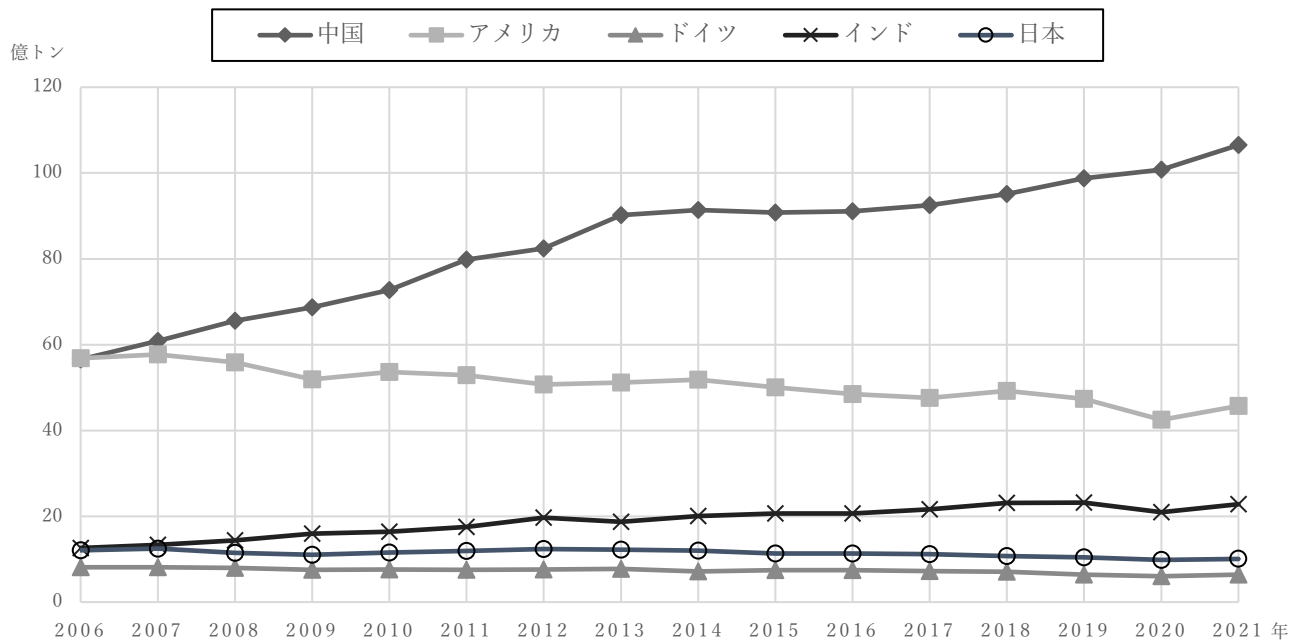
- 一 自分の考えを、理由とともに提示すること。
- 二 自分の考えに対する、想定される反対の意見を挙げること。
- 三 複数の資料を関連付けて解答すること。

資料1 世界のエネルギー起源二酸化炭素排出量の割合（2021年）



* エネルギー起源二酸化炭素——燃料の使用または他人から供給された電気もしくは熱の使用に伴い排出される二酸化炭素。

資料2 各国のエネルギー起源二酸化炭素排出量の推移



資料3 各国の発電量の推移 (億 kWh)

		火力		水力		原子力		*新エネルギー (再生可能エネルギー)		合計
			年ごとの割合		年ごとの割合		年ごとの割合		年ごとの割合	
アメリカ	2005年	31500	73.5%	2904	6.8%	8107	18.9%	353	0.8%	42864
	2010年	31365	71.6%	2863	6.5%	8389	19.2%	1167	2.7%	43784
	2015年	29684	68.8%	2711	6.3%	8303	19.2%	2474	5.7%	43172
	2020年	25733	60.4%	3082	7.2%	8231	19.3%	5554	13.0%	42600
中国	2005年	20473	82.0%	3970	15.9%	531	2.1%	0	0.0%	24974
	2010年	33319	79.2%	7222	17.2%	739	1.8%	792	1.9%	42072
	2015年	42890	73.8%	11303	19.4%	1708	2.9%	2245	3.9%	58146
	2020年	51740	66.6%	13552	17.5%	3663	4.7%	8699	11.2%	77654
日本	2005年	7064	64.1%	864	7.8%	3048	27.7%	48	0.4%	11023
	2010年	7299	65.2%	907	8.1%	2882	25.8%	104	0.9%	11192
	2015年	8970	86.1%	913	8.8%	94	0.9%	436	4.2%	10413
	2020年	7377	72.5%	875	8.6%	388	3.8%	1538	15.1%	10178
インド	2005年	5802	83.2%	999	14.3%	173	2.5%	0	0.0%	6974
	2010年	8138	85.3%	1145	12.0%	263	2.8%	0	0.0%	9545
	2015年	11583	85.5%	1215	9.0%	374	2.8%	371	2.7%	13544
	2020年	11655	76.0%	1609	10.5%	430	2.8%	1638	10.7%	15333
ドイツ	2005年	4020	64.8%	267	4.3%	1631	26.3%	285	4.6%	6203
	2010年	4116	65.4%	274	4.4%	1406	22.4%	495	7.9%	6290
	2015年	4121	63.7%	249	3.8%	918	14.2%	1181	18.3%	6469
	2020年	2434	42.5%	249	4.3%	644	11.2%	2400	41.9%	5727

*1Wh (ワット時) — 1W の電力を 1 時間使ったときの電力量。1Wh=3.6kJ (キロジュール)。

*新エネルギー (再生可能エネルギー) — 水力を除く。風力・地熱・太陽光・バイオ燃料・潮力など。